扇小だより

考える子　思いやりのある子　強い子

令和６年度　第１２号
開校50年目　　６月11日 児童数753名
入間市立扇小学校

学校の自慢を伸ばす

学校長　村越　新

６月５日には、開校記念日朝会を放送にて行いました。大事な朝会ですので、各クラスで２つのことを整えてから、進めました。

１　命が輝く教室

・机の上に何もない、机の下にも何もない、机がきちんと並んでいる

２　子供が向かい合う机の隊形

・本校、全体での学び合いの形

各クラスで学び合ってもらった課題は「扇小学校の自慢は何か」。発言は一人一回としました。各クラスでたくさんの意見が発表されました。多いクラスでは３０を越えた意見が出ました。３０人以上が発言したこととなります。

子供たちが「自慢」と考えてくれているもので、多かったベスト５を紹介します。

○ 給食

おいしい、いろんな献立がある、記念献立がある　など

○ 授業

学び合っている、楽しい、みんなが頑張っている、集中している　など

○ 先生

やさしい、おもしろい、子供に寄り添ってくれる、児童と仲よし　など

○ 児童の人間関係

助け合える、協力し合える、男女・学年を隔てず仲がいい　など

○ 施設等

校庭が広い、教室がたくさんある、遊具が多い、緑が多い　など

子供自身のことについても、たくさんの意見がありました。「元気」「明るい」「あいさつがいい」「体育が得意」「よく食べる」「相撲が強い」「綱引きが強い」などなどです。

また、「６年生がやさしい」「６年生が見本になっている」という発言が、下の学年から出たことも、嬉しい自慢です。６年生からも「６年生がリーダーとしてがんばっている」という意見が出ました。

子供たちが発表してくれた「扇小学校の自慢」をさらに磨き、５０年後も同じような意見が出るようにしたいものです。

航空写真

６月７日、開校記念日の前日に航空写真を撮影してもらいました。シンボルマークを象った隊形と、全員写真の二枚をドローンで撮影してもらいました。天気も味方しました。きっと素敵な写真が撮れたと思います。

自己肯定感

朝日小学生新聞（ネット版 2024.6.7）に、自己肯定感についての記事がありました。自己肯定感の中身について、分かりやすい内容だったので要約して紹介させてもらいます。

自己肯定感の中身

【根】自尊感情　（自分には価値がある）
【枝】自己効力感（自分にできると思える）
【幹】自己受容感（ありのままの自分を認める）
【実】自己有用感（自分は人の役に立てる）
【花】自己決定感（自分で決められる）
【葉】自己信頼感（自分を信じられる）

やることなすことうまくいかず、自信を失いそうになる場面で、「自分なら乗りこえられる」とはげまし、「先に良いことが待っているかも」と希望を見いだし、「笑顔のみなもと」になる。そんな気持ちや感覚が、自己肯定感だと、中島輝氏（心理カウンセラー）は、述べています。